

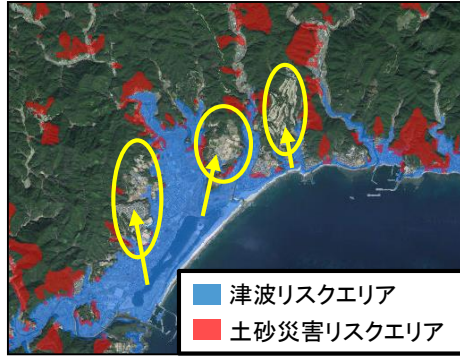
グリーンインフラ等の活用による新たな選択的・複合的土地利用の推進

～ 人口減少下における安全・安心で持続可能な国土の形成に向けて～

人口減少、高齢化、財政制約等の下で良好な国土を維持していくため、

- ① 防災・減災、自然共生、国土管理など複合的な機能を有する『国土の複合的な利用』を推進
- ② 自然的土地利用への転換や、より簡素な国土管理を含む『国土の選択的な利用』を推進

① より安全な地域に居住を誘導



人口減少等により、居住地選定の自由度が高まる機会を利用して、津波や土砂災害等のリスクが高い地域から、より安全な地域に居住を誘導。

← 災害リスクエリアから安全な地域への居住誘導(イメージ)

(a) 災害リスクの高い地域の土地利用を制限

② 防災機能等の自然が有する多機能性を活用した社会資本整備や土地利用を推進

防災・減災機能をはじめとした自然が有する多様な機能を活用した社会資本整備(緑の防潮堤など)や土地利用(遊水地整備により湿地環境が再生)などを行うグリーンインフラ等の取組みを推進。



↑ 遊水地として治水機能を確認すると共に、水質改善や生態系保全にも寄与(渡良瀬遊水地)

河川における治水と環境再生の両立(福岡県・上西郷川)

整備後(河道拡幅) →
↓ 整備前



【写真提供・協力】
島谷幸宏氏・林博徳氏(九州大学)

(b) 過去に損なわれた湿地、森林等の自然環境の保全・再生

人の手が入った土地は放棄しても自然に戻ることはなく荒廃する。さらに災害リスクが増大する可能性。
自然的土地利用への転換に際しては、土地の履歴や特性に即した初期投資が必要



手つかずの自然



荒廃地



里地里山

【写真提供・協力】
深澤圭太氏(国立環境研究所)

歴史的な人間活動

放棄

③ 森林や水資源等の適切な管理による資源やエネルギーを持続可能な形で利活用

森林や水資源等の適切な管理により国土保全機能を高めると共に、地域が資源やエネルギーを持続可能な形で利活用。

＜トキと共生する佐渡の里山＞→

地域資源である豊かな生き物環境や景観・文化をブランド化し、伝統的な農業による農産物の高付加価値化や都市住民との棚田オーナー制度を通じた交流などを行いつつ、地域の暮らしと国土管理を両立



トキと共生する佐渡の里山

新潟県 佐渡市

佐渡市は、佐渡金山の閉山を機に、人々のために、新田が開墾されました。先人の努力によって豊かな山間部が、手つかずの自然環境の里山として残りました。生き物多様性の高い里山が維持され、里山は自然の恵みと人間の営みの文化が息づき、今日に継承されています。

防災・減災の視点

国土管理の視点

自然共生の視点

(c) ・低コストで適切に管理する国土(簡素な国土利用)
・本来の用途に戻せることを前提とした国土(備える国土利用)も選択肢

○簡素な国土利用例



現状の管理が困難な土地については、草地、森林等への転換等による低コストで適切な管理

← 耕作放棄地を利用して、景観作物の菜の花等を栽培して農地の保全に努めるとともに、植物油等を生成し、販売

○備える国土利用例



一度改変されると復元が困難な土地利用については、本来の用途に戻せることを前提とした管理

← 牛を放牧して、除草作業の軽減や獣害被害対策、コスト削減・労働時間短縮化等を目的とした管理を行なう

複合的な国土利用 国土の選択的な利用

地域自らが土地利用を選択することによるきめ細やかな土地利用。地域住民に加え、都市住民、企業、NPOなど多様な主体で管理。